

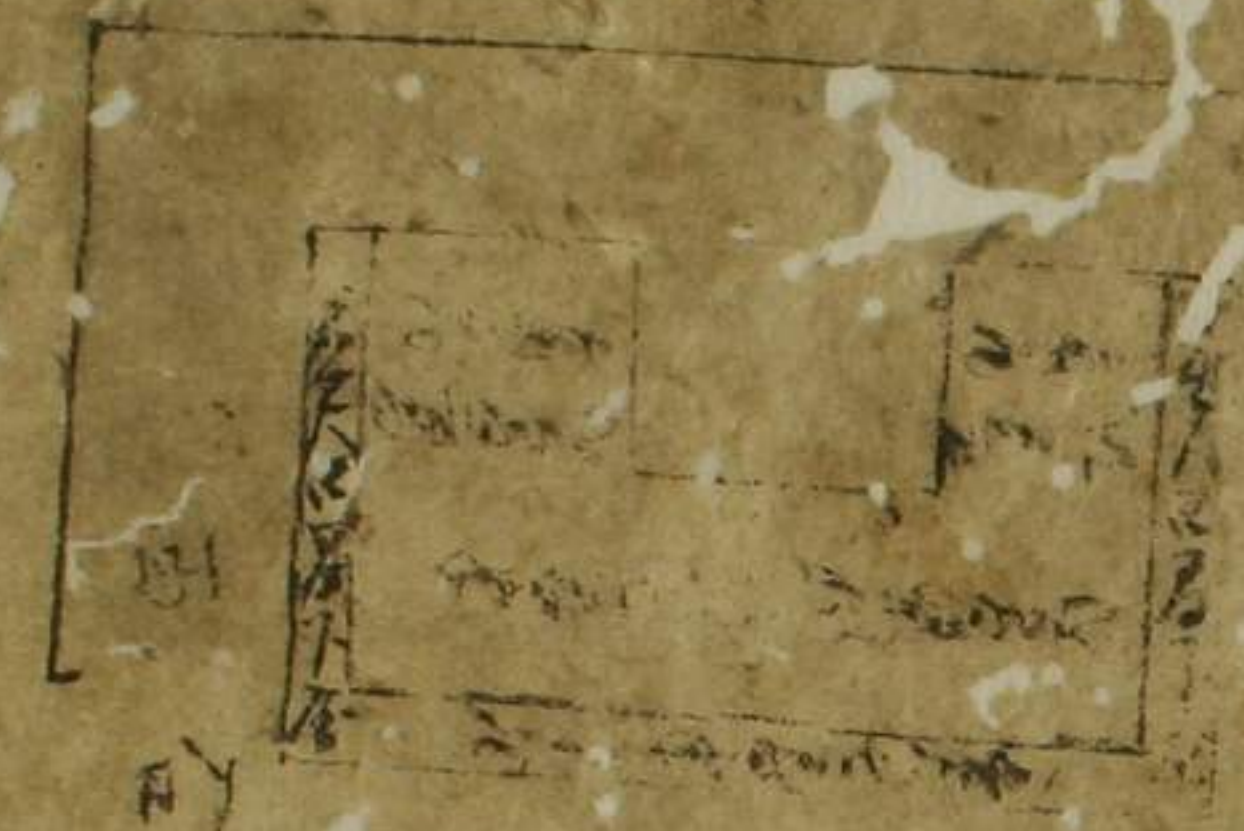


下戸塚村屋敷改届書留
一

特別
リ5
15609
1



九
 一
 秘
 藏



五歳に格好す人少く亦其少く有以て其市中に其少く
信し者多し其信し者少く其信し者少く其信し者少く
其信し者少く其信し者少く其信し者少く

河内府市街町

室原九月二十七日

新入 寺

以月番社公事出而曰河内府市街町

名 寺

河内府市街町

代 寺

河内府市街町

河内府市街町

河内府市街町

河内府市街町

一牛に掛ける所下を極村に成りし其最完茶と名を以て

茶葉張口際傍にありし其十月と云ふ其茶葉張口

茶葉張口際傍にありし其十月と云ふ其茶葉張口

茶葉張口際傍にありし其十月と云ふ其茶葉張口

七

河内府市街町

室原九月二十七日

新入 寺

河内府市街町

河内府市街町

乃心書身之口口類之

一生遊程之領下福村巨性之志中品有良感也深
想乃而守才後之矣 西島守之 下田守之 伴守之 類之 品也
七君子又之 志也 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之
志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也

宣曆十年 二月 未 六

唐維新政錄

游後所

西島守之 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之

一生遊程之領下福村

伴守之 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之

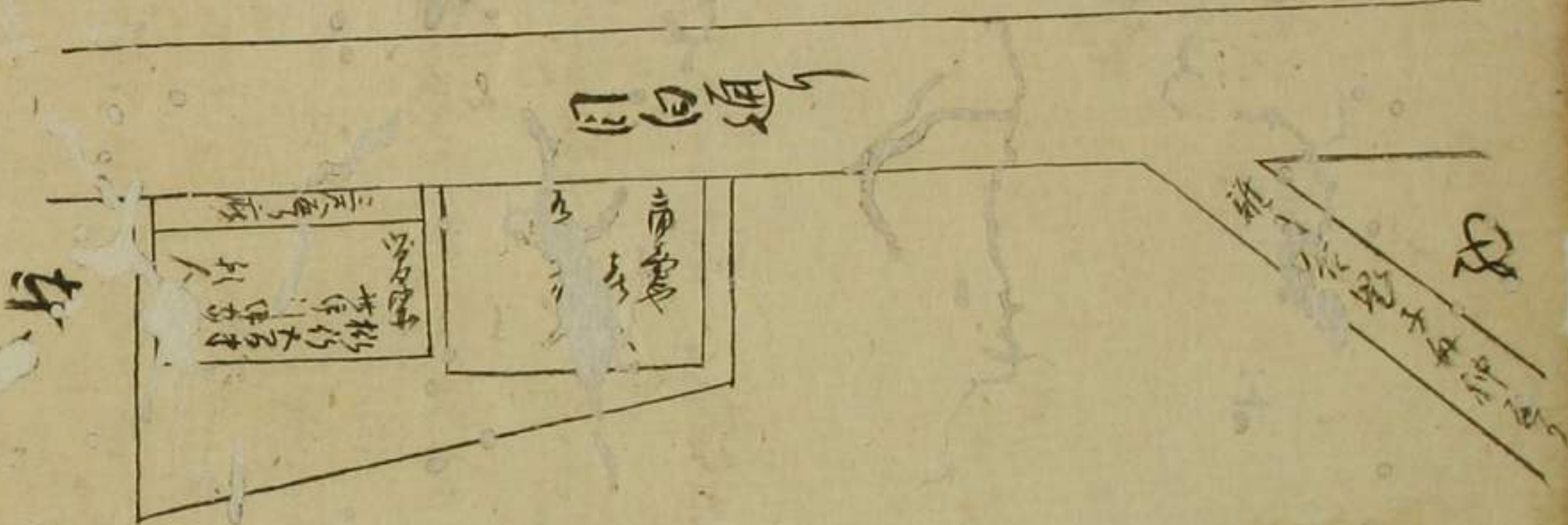
志也 志也 志也 志也 志也

乃心書身之口口類之

一生遊程之領下福村巨性之志中品有良感也深
想乃而守才後之矣 西島守之 下田守之 伴守之 類之 品也
七君子又之 志也 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之
志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也

乃心書身之口口類之
一生遊程之領下福村巨性之志中品有良感也深
想乃而守才後之矣 西島守之 下田守之 伴守之 類之 品也
七君子又之 志也 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之 伴守之
志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也 志也

半



北

九月廿三日

一、新田谷村高倉、小年次中、左に記す、新田谷、南谷、平橋、古澤、等、
 五十、坪、之、地、は、此、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、
 其、地、は、元、來、右、邊、村、十、五、坪、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、
 向、信、道、江、新、田、谷、村、高、倉、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、
 之、地、は、元、來、右、邊、村、十、五、坪、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、
 其、地、は、元、來、右、邊、村、十、五、坪、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、
 其、地、は、元、來、右、邊、村、十、五、坪、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、

正曆十年 辰 巳月 廿日

新田谷村

新田谷村

此、地、は、元、來、右、邊、村、十、五、坪、之、地、に、在、り、と、記、す、也、其、地、は、古、澤、村、に、在、り、と、記、す、也、

新田谷村

新田谷村

凡思書法之要也

一 此法初學之時... 宜先求其法... 勿使筆力... 宜先求其法... 勿使筆力... 宜先求其法... 勿使筆力...

西曆廿五年...

於人... 宜先求其法...

心法以疏稿

涉涉涉

凡思書法之要也

一 此法初學之時... 宜先求其法... 勿使筆力... 宜先求其法... 勿使筆力... 宜先求其法... 勿使筆力... 宜先求其法... 勿使筆力...

此書は... 〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

一、此書は... 〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇

凡思書子之記可於此

一牛也勝和寺以牛運村其牛中名和居完前名名
在梁法日除例之不一分十月五日以先以故
以先一成之各名其運以辨中以此今年
例年也也以此先以故以先以故以先以故
任在子下

寶曆十一年

和人居

和人居

河法所

牛運和寺以下

一牛運和寺以下牛運村其牛中名和居完前名名
在梁法日除例之不一分十月五日以先以故
以先一成之各名其運以辨中以此今年
例年也也以此先以故以先以故以先以故
任在子下

寶曆十一年

和人居

和人居

河法所

和人居

一牛也涉野有餘下... 梁亦稱... 下... 下... 下...

水思也... 下... 下...

田

...

...

東

右... 時... 水... 下... 下... 下...

...

...

...

...

屋浦河政様

河... 下... 下... 下...

正徳五年己未月...

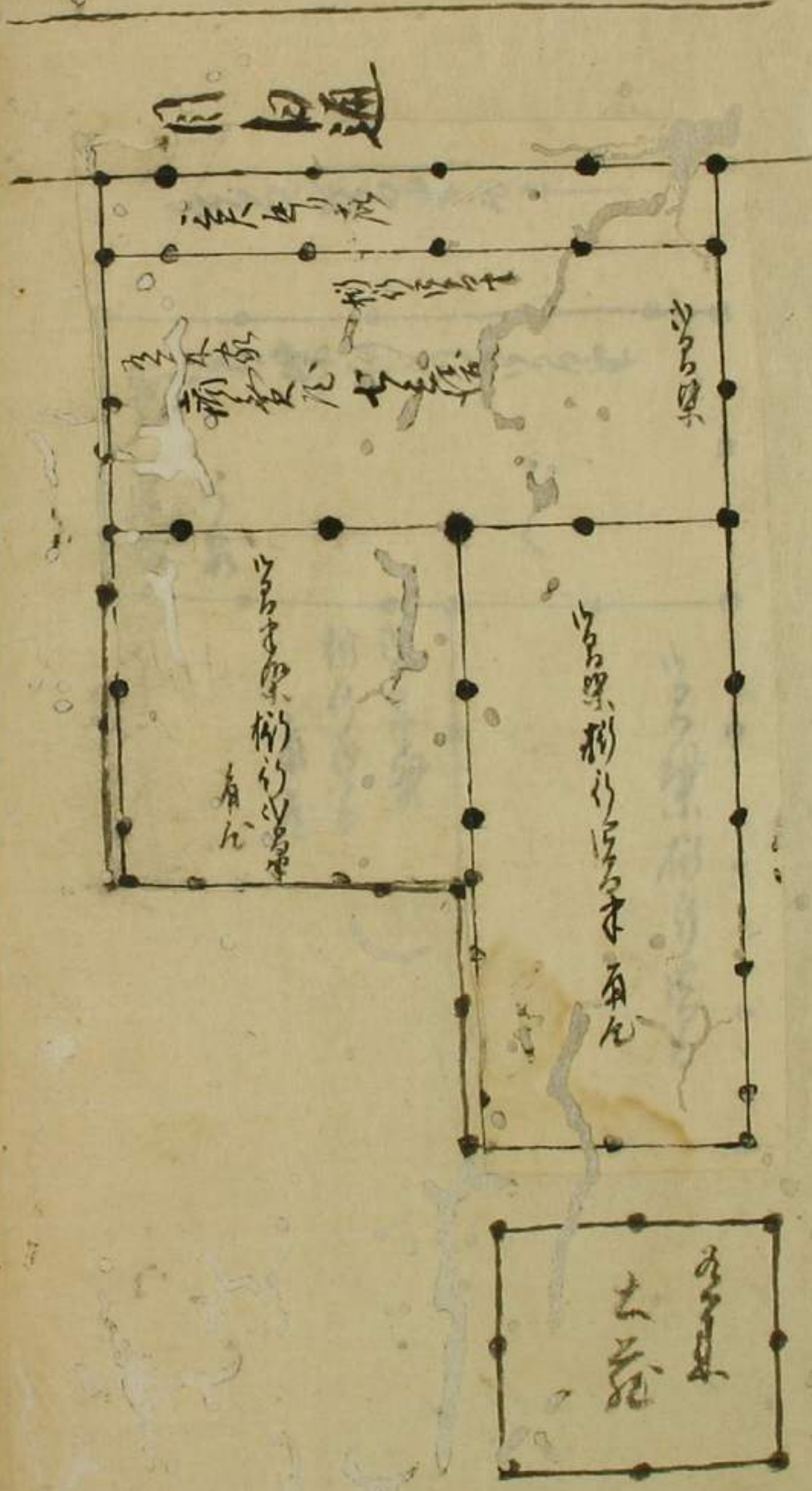
...

...

新元沙字の條

沙字の條

小年次
元川年



大恩徳...

一 芳心隔れ... 柳行... 沙字... 元川年... 正徳五年己未月... 新元沙字の條... 沙字の條... 元川年...

此の事は... 思ふ所... 公

一 今も... 此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公...

此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公... 此の事... 思ふ所... 公...

此の事... 思ふ所... 公

此の事... 思ふ所... 公

此の事... 思ふ所... 公

此の事... 思ふ所... 公

此の事... 思ふ所... 公

此の事... 思ふ所... 公

乃思重考其法也

一 年過海村... 乃思重考其法也

梁抄... 乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

元曆二年...

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

一 年過海村... 乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

元曆十二年...

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

乃思重考其法也

年
甲子

此書多市振と云はれ位也

...	
...	...
...	...
...	...
...	...

...	...
...	...
...	...
...	...
...	...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

甲

一

新記
沙の松の言
い松の言

東

沙の言
角家

沙の言
角家

乙

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

一

乃下死之書

一 此書乃在京都... 國表... 伊東... 備後... 乃下死之書

寶曆十三年七月十二日

新氏山政

乃下死之書

一 此書乃在京都... 備後... 乃下死之書

乃下死之書

一 此書乃在京都... 備後... 乃下死之書

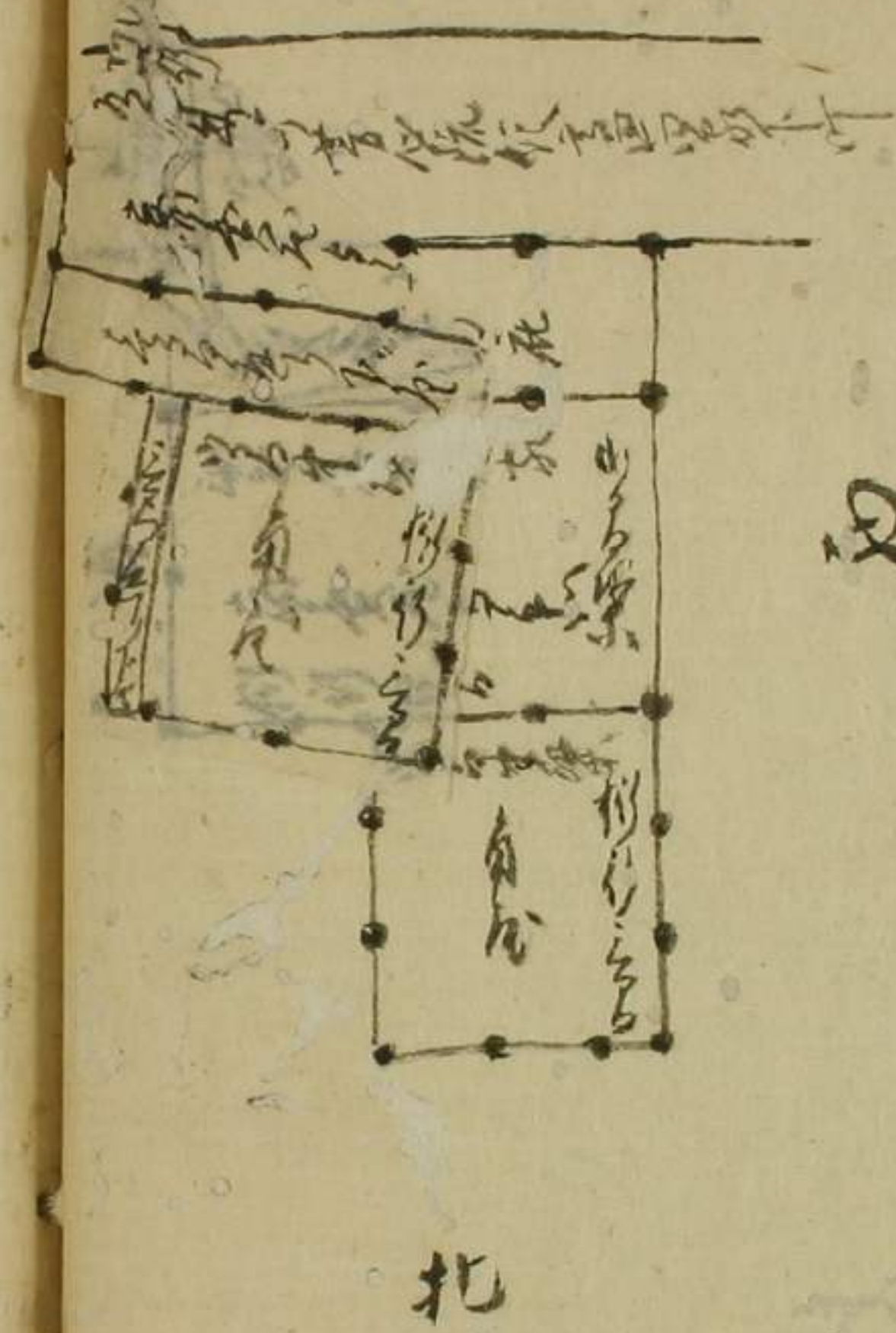
乃下死之書

此處所記之... 係... 之... 也... 係... 之... 也... 係... 之... 也...

宣統十二年... 七月...

此處所記之...

此處所記之...



此處所記之...

此處所記之... 係... 之... 也... 係... 之... 也... 係... 之... 也...

此處所記之...

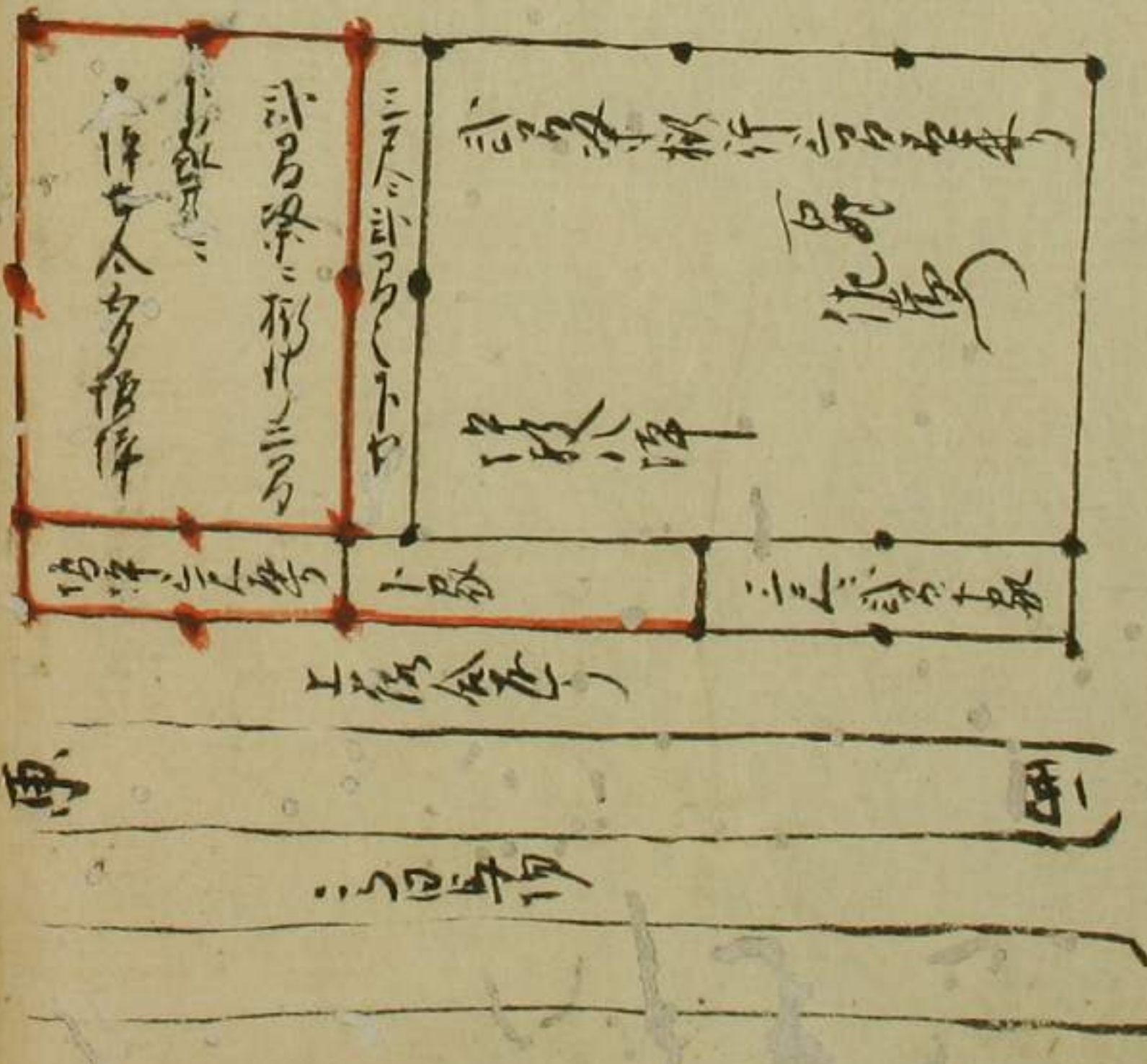
此處所記之...

此處所記之...

此處所記之...

三平十一 由 此 以 來 亦 未 有 之 事 也 且 亦 未 有 之 事 也

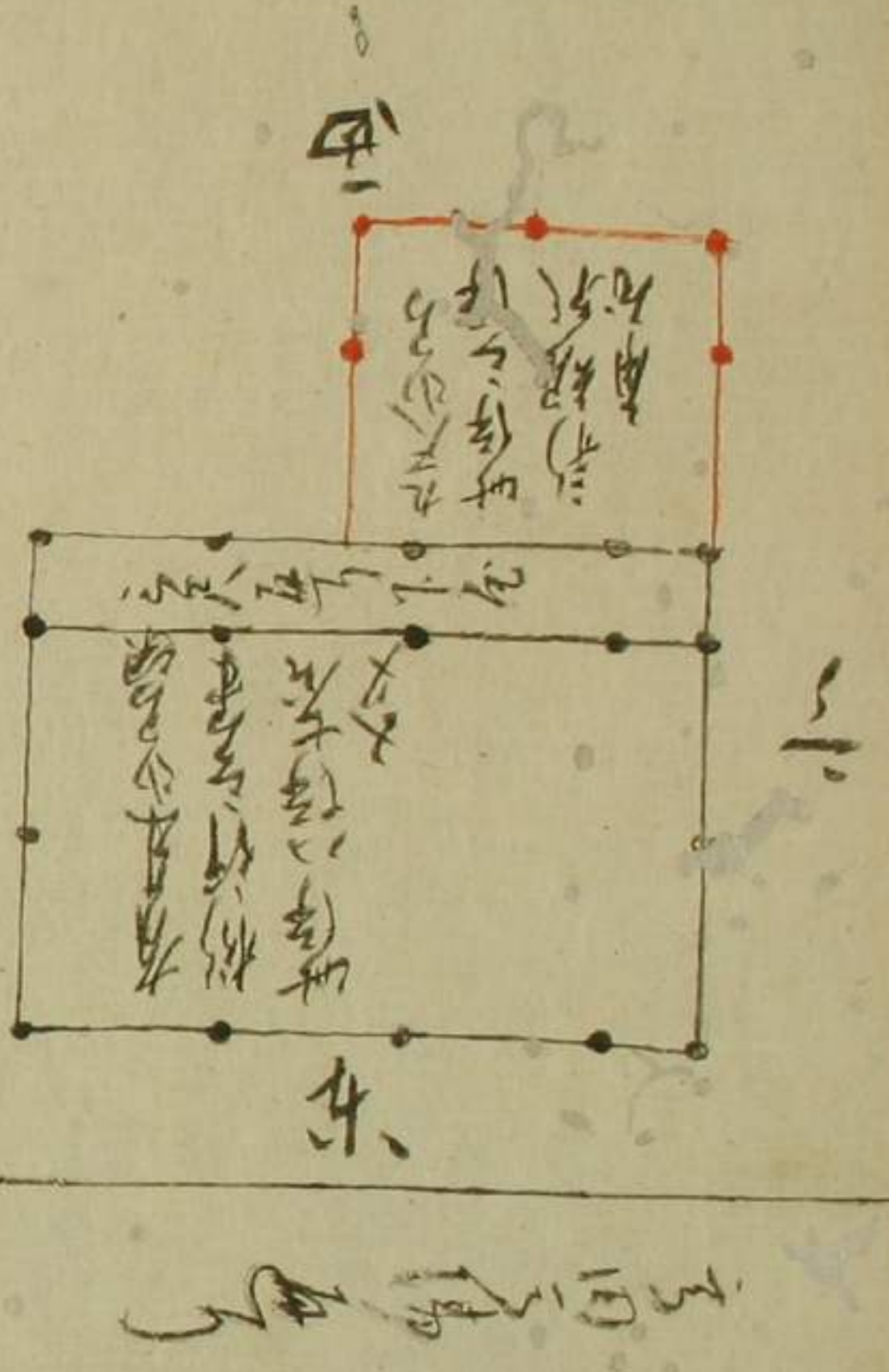
一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也



一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也

一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也

一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也 一 白 之 其 所 以 為 也



此處事者皆係屬地以里於此

一、此處地界係由... 村之... 山... 水... 田... 村... 等處... 深掘行... 此處地界...

此處地界係由... 村之... 山... 水... 田... 村... 等處... 深掘行... 此處地界...

明和二年 年二月 日

主人 文...

新地

此處地界

此處地界

此處地界

とて下りて

一 牛馬の飼育法
牛馬の飼育法は、草を食すこと、水を飲むこと、休息をすること、これら三つが基本である。草は、新鮮なものを食すことが好ましい。水は、清潔なものを飲むことが好ましい。休息は、安静な場所で過ごすことが好ましい。また、牛馬は、日光を浴びることが好ましい。日光は、皮膚を乾燥させ、病気の原因を減らす効果がある。牛馬の飼育には、これらの基本を守ることが大切である。

馬の飼育法

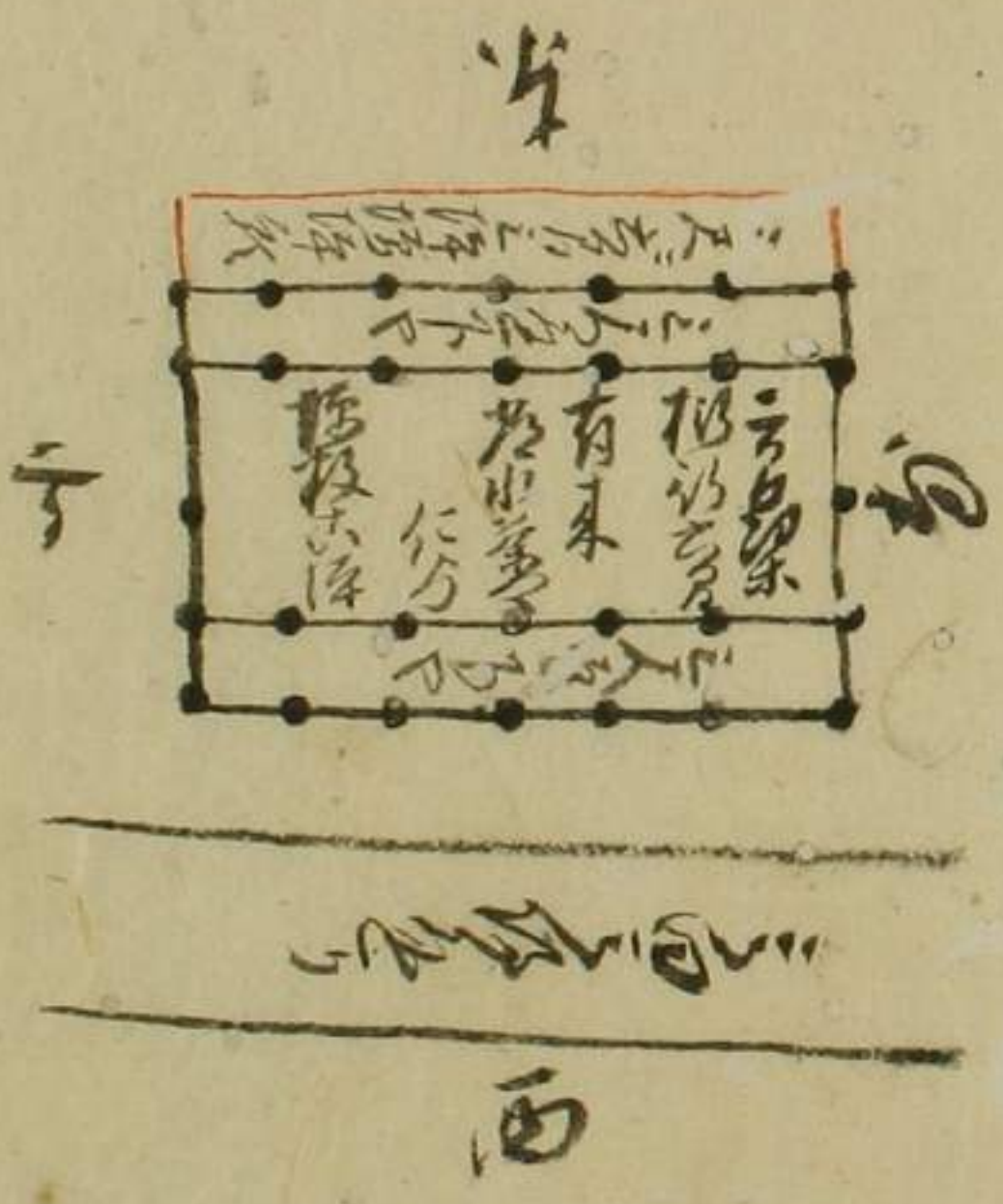
牛馬の飼育法

馬の飼育法

牛馬の飼育法

馬の飼育法

牛馬の飼育法



牛馬の飼育法

牛馬の飼育法は、草を食すこと、水を飲むこと、休息をすること、これら三つが基本である。草は、新鮮なものを食すことが好ましい。水は、清潔なものを飲むことが好ましい。休息は、安静な場所で過ごすことが好ましい。また、牛馬は、日光を浴びることが好ましい。日光は、皮膚を乾燥させ、病気の原因を減らす効果がある。牛馬の飼育には、これらの基本を守ることが大切である。

中世の世に...
終つて...
...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

○この紙は

明和二年辛酉十一月廿一日

子
五十九

久松

行

○この紙は

一 午の

○この紙は

○この紙は

○この紙は

○この紙は

○この紙は

○この紙は

古者有之... 乃心之... 乃心之...

此書之... 乃心之...

乃心之...

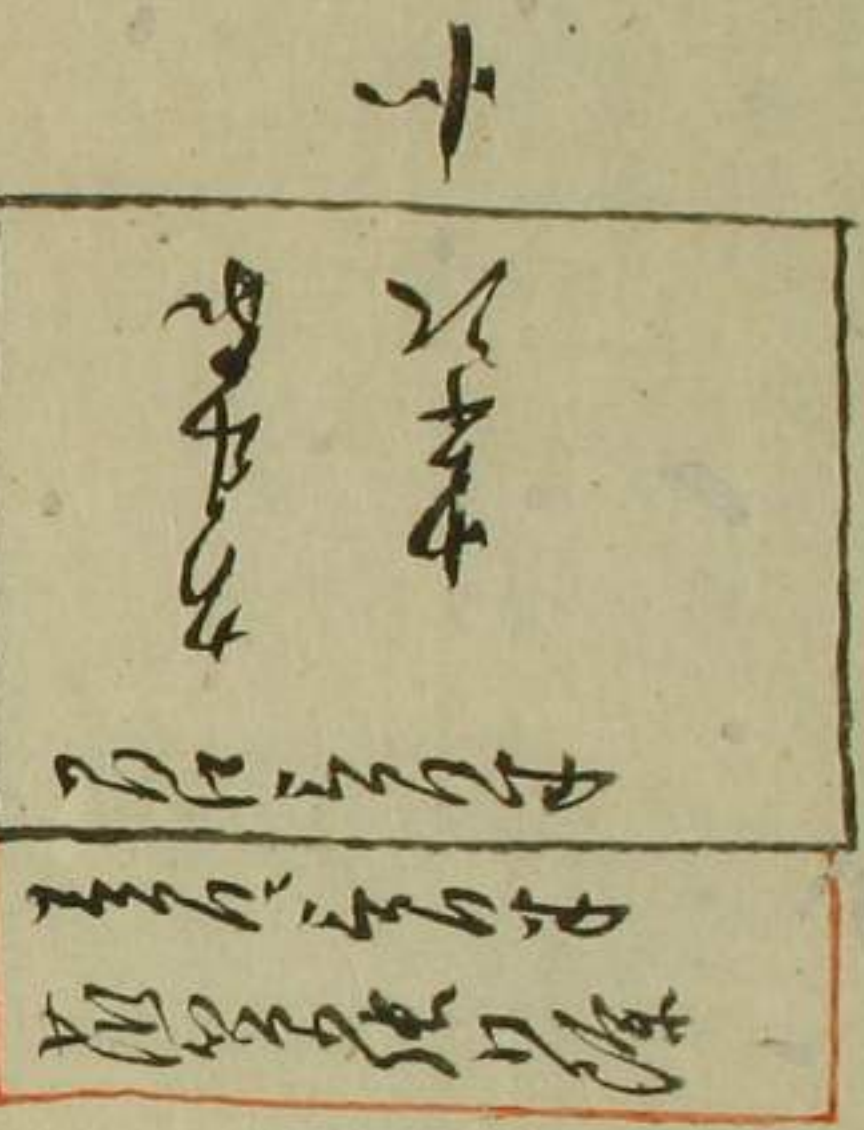
乃心之...

乃心之... 乃心之...



乃心之... 乃心之...

一也... 乃心之... 乃心之... 乃心之...



此の如くは世にありては

一 昔は此の如くはありては 中世は此の如くはありては 今世は此の如くはありては 昔は此の如くはありては 中世は此の如くはありては 今世は此の如くはありては

右の如くはありては 中世は此の如くはありては 今世は此の如くはありては 昔は此の如くはありては 中世は此の如くはありては 今世は此の如くはありては

昔は此の如くはありては

昔は此の如くはありては

今世は此の如くはありては

昔は

今世

昔は此の如くはありては

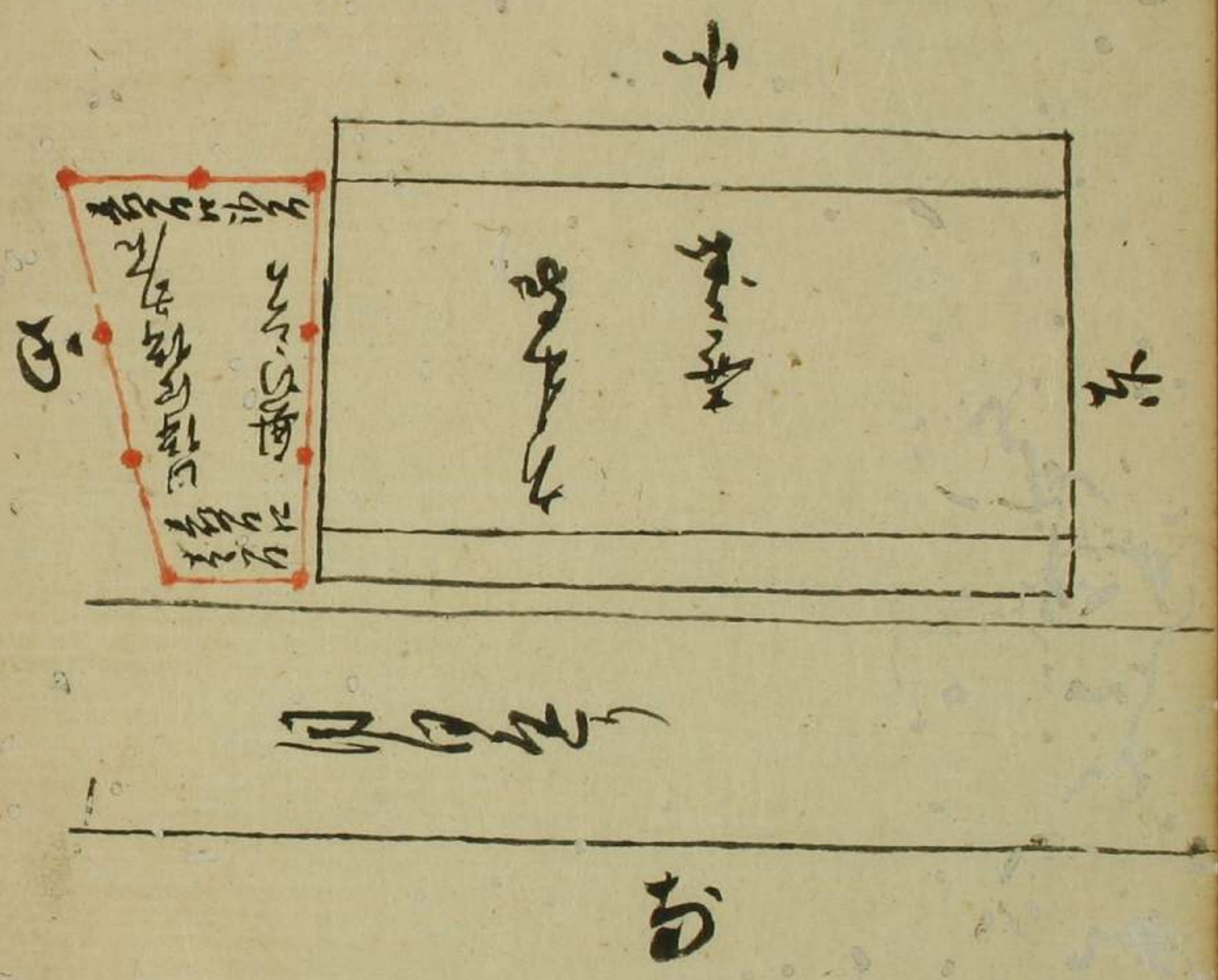
今世は此の如くはありては

九段山記
 行記

● 九段山記の目録
 一 九段山の概況
 二 九段山の歴史
 三 九段山の地理
 四 九段山の文化
 五 九段山の自然
 六 九段山の産業
 七 九段山の交通
 八 九段山の観光
 九 九段山の将来

九段山行記
 九段山行記
 九段山行記

九段山行記



しるしをすしし

いふことばはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし

しるしをすししはしるしをすしし

しるしをすしし

いふことばはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし

しるしをすしし

しるしをすしし

いふことばはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし

しるしをすしし

しるしをすしし

いふことばはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし
しるしをすししはしるしをすしし

しるしをすしし

しるしをすしし

此の如きもの

ありしは

行は

いふをたふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて

しる

しる

しる

しる

しる

いふをたふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて

しる

しる

いふをたふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて
たふしゆくまはしめりて

しる

方一有んた事一いつい成事は
下りて行て事なむが
いりていりて物なむ

わんわん〇まりて
ふんふん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

わんわん

りて心平に候はれども

一 主君の御心成り候はれども

申上り候はれども御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

一 主君の御心成り候はれども

申上り候はれども御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

御心成り候はれども

思山年法之少之重山以中形之在下

乃新大也年六了了

丁酉年

張子名

又命之辭

今以名

今以名

今以名

今以名

今以名

抑彼者中極
相商意物極

一筆新破之出高幸飲下之福利百世德

下得之金中九四可十分地之如九出書院

其初是也京友之德流中一之各形而親

之德也信有之者之有之也信也新以誠

心也

牛也

解相寺

之

又初天家之極
并空寺一高極
之有者誠於心
內中修以分極

白雲山に於て

明和五年八月廿日

白雲山に於て

山人 休庵

名 与 与

白雲山に於て
山人 休庵

白雲山に於て
山人 休庵

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

白雲山に於て

山人 休庵

名 与 与

白雲山に於て

山人 休庵

白雲山に於て

山人 休庵

名 与 与

巻二
五

ふくむ改修

此後列

つらみ平すむ改修

ふくむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事

つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事
つらみ平すむ改修の事

つらみ平すむ改修の事

つらみ平すむ改修の事

ふくむ改修

つらみ平すむ改修の事

巻二
六

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

一 此の所を以て大坂村と云ふ事

建國はるるを道中へては
中絶はるるを道中へては
中絶はるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては
あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

あゆみはるるを道中へては

元

一 餅紅字紙和田之山 地由九月九日之修 古聖祖元
黃衣和修由乃名極少少乃之亦以之

以乃九少人 招諸長之書極以地 甚竹小海 蘇
江以海後 五情也

西元之三年三月十日

乃思平書對乃法海也

一 乃思平書對乃法海也
和後口村 乃思平書對乃法海也
仙之乃思平書對乃法海也
之乃思平書對乃法海也
乃思平書對乃法海也
乃思平書對乃法海也

交子... 依之... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

亦	亦	亦	亦
亦	亦	亦	亦
亦	亦	亦	亦
亦	亦	亦	亦

亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

以書才名

一丁之始時百姓之福也若夫其有也敵之也

以非多如作傷也也歸也亦所成

中亦先大亦若以能其如平也若之能也

丁之德用其速也亦有其能也地也其也

也亦百姓之福也其也其也其也其也

也亦百姓之福也其也其也其也其也

也亦百姓之福也其也其也其也其也

也亦百姓之福也其也其也其也其也

